

南葛城・御所の史跡を訪ねる

(会員) 阪口 孝男

・実施日 平成二十年九月二十七日

・参加人員 山口会長以下三十七名

・天候 晴れ・気温 日中最高温度二三・

七度 北北東三メートルの風

・講師

堺女子短期大学学長 塚口義信 先生

(前)福井県埋蔵文化財センター所長

中司照世 先生

車中オリエンテーション

午前八時三十分 豊中蛍池公民館前を出発して間もなく塚口先生から当日の南葛城・御所市方面史跡探訪のオリエンテーションが始まる。

まず、最初に訪れるのは、葛城市寺口にある巨大な横穴式石室を持ち、古墳時代後期前方後円墳の基準とされている有名な

二塚古墳である。

次は、同市屋敷山公園内にある葛城市最大の前方後円墳、屋敷山古墳に行く。

三番目は葛城市全般の歴史が学べる葛城市歴史博物館である。

※この後、五條市に向かうが、途中「ばあく」という郷土季節料理の店に立ち寄り昼食。なかなか洒落た食事を出す店で本日のお楽しみの一つ。

昼食後、最初に行くのは五條市立文化博物館。見どころの展示品は、

- ①五條市の古墳出土物
- ②隅田八幡宮の人物画像鏡の銘文
- ③二〇人の専門家によるそれぞれの解釈一覧表
- ④天誅組事件の関係古文書
- ⑤藤原氏ゆかりの栄山寺八角田堂内陣の装

飾画。等々。

それから、同館にある3D(立体映像)が面白いので観賞の予定。

次に、隅田八幡宮に行つて有名な人物画像鏡のレプリカを見せて貰う事にしていく。

隅田八幡宮の見学を済ませてから古代の幹線道路を抜け、風の森峠を経て、南葛城最大の前方後円墳、室の宮山古墳に行く。



二塚古墳遠景

※風の森峠は古代には大和盆地と紀ノ川流域の境界となつている所で近くには鴨氏の氏神、高鴨神社がある。

最後に、時間があれば近鉄御所駅近くの鴨都波神社に寄りたい。ここには弥生時代の拠点の大集落の鴨都波遺跡がある。恐らく古代鴨集団の居住地である。また、ごく近くに前期古墳の鴨都波1・2号墳があり三角縁神獣鏡等が出土している。

以上、塚口先生が用意された詳細な地図と写真入りの資料で、南葛城から五條までの凡その地勢と目的地の場所を確認しオリエンテーションが終了する。

※この後、引き続き塚口先生から、五世紀代の南葛城最大の豪族葛城氏について講義を受け、さらに以後の各ステージでも見学地に関係する解説をして頂く。

さて、蛍池公民館前を出たバスは、吹田から近畿自動車道を利用し松原・美原ICを経て南阪奈道路に入って、右手に二上山

が見えて来ると、間もなく金剛・葛城の山並みの向うに美しい大和平野が姿を現す。葛城インターで高速を降り、一般道の寺口・北花内線を南下し、予定のコース通り、最初の見学地に向かう。

I【二塚古墳】 葛城市寺口



石室にて

寺口集落でバスを降り、山麓に向かつてやや急な道を登り切った尾根上の平坦な所

に、主軸を南北にして造られた、全長六〇メートルの前方後円墳が現れる。

後円部の横穴式石室の入り口は開いているので、ふだんは鉄格子で出入りが出来ないようになっていいる。

早速、後円部の石室に入る。天井が非常に高い。中司先生のご説明によれば「この古墳の石室は後円部以外に前方部とくびれ部にもあり、後円部と前方部の石室は畿内系であるが、くびれ部の石室は九州系で、その被葬者は九州と関係がある人物であろう、また、ここからTK43型式の須恵器が出土しているので、古墳も六世紀中頃の築造で、葛城氏が滅んだあとの在地豪族の首長の古墳であろう」との見解を示される。

II【屋敷山古墳】 葛城市忍海250

二塚古墳から東にバスで五分くらい走った新庄町に史跡公園として整備された屋敷山公園の中に屋敷山古墳がある。この古墳は中世から江戸時代に居館として利用されたときに頂上部が大きく改変され、段築の

状況等、元の姿を留めていない。

中司先生のご説明によれば、「全長一四五メートルの前方後円墳で、新庄町教育委員会の発掘調査により、**第IV期**(四世紀後半代)の埴輪、葺石、竜山石製長持形石棺の蓋



屋敷山古墳
(航空写真)

石等が明らかになっており、特に五世紀後半に大王家を中心とした大豪族が使った石棺と同じ長持形の石棺が見られることから葛城氏の有力者の古墳」との事である。

III 【葛城市歴史博物館】

葛城市忍海250・1

ここは市内からの出土物や資料を中心に葛城地方全域の歴史を紹介した施設である。館内に入ると正面右手に葛城島の山古墳から出土した実物大の組合せ式家形石棺がある。展示室内に進むとフロアーに設置された航空写真や周囲のパノラマ写真とコンピュータグラフィクス映像で葛城の地形や地



石棺蓋石・短側石
(屋敷山古墳出土)

理、自然が観察出来る様になっている。

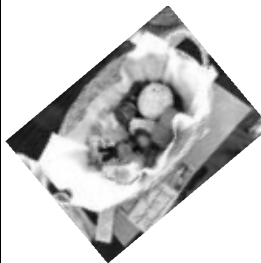
展示品の目玉は、先程見学して来た屋敷山古墳出土の長持形石棺の蓋石と棺身短側石で、一行の注目が一斉に集まる。

程なく葛城市歴史博物館を後にして忍海から次の目的地、五條市の【ばあく】に向かう。

IV 「ばあく」で昼食

五條市近内町526

ここは、天保から明治にかけて造られた庄屋の屋敷で平成十八年三月、国の登録文化財「藤岡家住宅」として指定され、邸内はまだ整備中であるが、我々一行のために特別に場所を提供してもらった。料理は近くの【ばあく】という郷土季節料理の店から仕出しされたもので、バスケットに盛られた、お洒落なピクニック弁当である。



昼食後、直ぐ次の目的地である五條文化博物館に向かう。

V 【市立五條文化博物館】

五條市北山町930

この建物は自然との調和を図るため、山の斜面を削り取った跡に三階建ての博物館を造ってから再び一、二階分を埋戻すと云う方法を採用したユニークな建物である。



市立五條博物館

入館後、早速、疑似体験映像室で、3D（立

体映像）の「五條、吉野川の自然と文化」を観た後、お目当ての人物画像鏡銘の訓読一覧表を見る。難解な字体や癸未みづのとしの実年代の考察にしても銘文の解釈に定説を見出せない理由が頷ける。

続いて古墳出土品【猫塚・南阿田大塚・塚山・今井一号・勘定山古墳】展示のコナーで中司先生から①この地域（近内古墳群）の古墳の特徴は、円墳、方墳が多いこと。②館内展示の五条猫塚古墳の金銅製蒙古鉢型眉庇付冑や埴製枕・鍛冶道具類の他、数々の鉄製品出土品に見られるように、渡来文化の影響を受けた豊富な鉄製品が副葬されていることであり、朝鮮半島との繋がりを強く感じる。③また、五條市には阿多隼人の先祖を祭神としている阿陀比売神社・二見神社が鎮座し、南九州との繋がりの伝承がある特色のある地域である」との解説を受ける。

VI 【隅田八幡宮人物画像鏡】

橋本市隅田

寺本宮司のお話によれば、「人物画像鏡は



人物画像鏡と寺本宮司

大正五年（一九一六年）に初めて世に出て、銘文の読みが下ったこと、鏡は摩耗も錆も罅もなく出土品ではなく、奉納され代々受け継がれてきたものである。鏡の造りには随所に幼稚さが見られるので日本で何かを真似て造られた物に違いない。筆も墨も紙

もない時代に、中国からこの文字がどの様にして伝えられたか、当時の時代背景に思いを致して観て欲しい。」とのご挨拶の後、社務所に招じ入れられ【人物画像鏡レプリカ】を見せて頂く。

VII 【室宮山古墳】

御所市大字室

五世紀初頭の全長二三メートル、三段築成の巨大な前方後円墳。後円部墳丘上に二基の竪穴式石室があり、発掘調査によれば、南石室のほぼ中央に竜山石製の長持ち形石棺が安置されており、石棺蓋石の前後左右の各辺に二個ずつと、棺身長側石の前後に各一個の縄掛突起があり短側石中央上方には並列する二個の方形突起がある。蓋石上面は格子状に彫り込んで亀甲状を呈していると報告されている。現在は大半が石室内のためみられないが、一部露出した石棺の盗掘穴から内部が確認出来るとの事で、古墳下の八幡神社の境内を通抜け、墳丘に登って石室を覗き見る。

室宮山古墳の見学が終わる頃には早や夕

蓋石と盗掘坑



室宮山古墳の石棺内部

暮れ迫り、今回の見学会は、これを以て終了となる。

この後、塚口先生と近鉄御所駅でお別れし一行は帰路に着く。

備考 本日塚口先生から南葛城の史跡探訪のバス中で講義して頂いた貴重な内容を、以下に取纏め略記します。投稿者の力不足で正しく、漏れなく、お伝え出来ていない点、お詫び申上げる。

オリエンテーション終了後の解説

五世紀葛城地方の大豪族である葛城氏の実態について

始祖襲津彦以後、玉田宿禰系と葦田宿禰系に分かれ、それぞれの勢力基盤、範囲はおおむね葛城南部と葛城北部に分かれ、大王家の外戚として勢力を振るうが、二頭政治の中で両者に軋轢が深まり、『記』『紀』に記す眉輪王の変を契機に葛城氏は滅亡に向かう。

大和王権の直轄領、葛城県の成立もこの

様な背景の中で生まれる。

屋敷山古墳から葛城市歴史博物館に向う

バス中での解説

①屋敷山古墳の編年に関し、即ち南葛城に五世紀初頭前後から出現する巨大古墳の築造編年順について室宮山古墳↓掖上罐子塚古墳↓屋敷山古墳とする見方と室宮山古墳↓屋敷山古墳↓掖上罐子塚古墳とする見方がある。従って葛城の族長とされる、その被葬者についても、室宮山古墳の被葬者【葛城長柄襲津彦】は動かぬものの掖上罐子塚古墳と屋敷山古墳の被葬者については定説を見ていない。

②次に、ここ忍海の付近にはヤマト王権の直轄領であった大和六つの御県の一つである葛城御県を守護する葛城御県神社や飯豊天皇埴口丘陵（北花内大塚古墳）がある。

現葛城市歴史博物館から五條市に向う

バス中の解説

①この忍海の辺りに飯豊皇女が政治をとつたといわれる角刺神社や角刺宮伝承地があるのは、眉輪王の変で南葛城系の族長らが

滅んだ後に北葛城系の飯豊皇女らがこの地に入って基盤を固めたのである。又それ以来、この地で勢力を振う様になるのが蘇我氏で、その台頭の背景について色々とい説が考えられる。

②南葛城地区には鴨山神社、鴨都波神社、高鴨神社が鎮座する。なかでも鴨都波神社の祭神は鴨都波八重事代主命となつているが、大和で事代主命を祀る神社は橿原市にも高市御県坐鴨事代主神社があり、元元大和系のこの神が、何故『記』『紀』では、出雲系の神とされたのか、大いに関心のある所である。

③南葛城には四世紀後半の小さい前期古墳が点在するが、なかでも注目されるのが寺口和田13号、鴨都波1・2号墳、山本山古墳で、その中心勢力は鴨集団と考えられる。

④それが五世紀に入ると突如、この地区に室宮山古墳、掖上罐子塚古墳、屋敷山古墳と葛城系の巨大な古墳が続いて出現する。これは南葛城で首長系列に大変動があった事を示しており、その原因は四世紀末の西



隅田八幡神社 08.9.27

日本の規模の騒乱の結果、と考える。この他、各ステージで阿多隼人の話、修験道、道教と薬の話、等々教わったが、紙幅の関係で割愛させて頂く。

最後に、塚口先生に特段のお礼を申し上げます。

今回のバス旅行に際し、本来なら我々が奈良県香芝市(大和の国葛下郡)の先生のお住まいの場所迄出向いて、ご同行願うべきところ、それでは充分な説明時間がとれないと、二日前、先生自ら葛城市に赴かれ二塚古墳石室の開閉手続きを済まされ、本日、朝早く豊中までわざわざお出で頂き長時間、ご丁寧な案内と熱心なご講義を頂きました。先生の温かく行き届いたご配慮に深く感謝申し上げます。

【池田市立歴史民俗資料館の特別展】

『賑ー交わる街道と池田』

(十月十七日～十二月七日)

今回の特別展では江戸時代、街道が池田の経済・文化・社会などに、どのような役割をはたしたかについて紹介されています。(阪急宝塚線「池田」下車北東徒歩十五分)

TEL 072 (751) 3019

藁灰のつんと鼻つく菊日和

宮田 佐智子



十二月の例会

十二月十三日 (土) 午後二時より

会場 豊中市教育センター

「五世紀のヤマト政権と大伴氏」

堺女子短大 准教授

水谷 千秋 先生

*十二月の現地見学はお休みです。

編集後記

好況時に巨額の借金を抱えた自治体は、昨今の経済情勢のなかにあつて更なる大幅な経費の節減を迫られています。

そのなかで、文化事業の担当者には、日常業務に加えて、事業の意義・必要性を広く理解してもらうための自助努力が求められています。そのためには、限られたマンパワーでは、プライベートルな時間を割かざるを得ないような状況です。

いま、各地の博物館、遺跡ではボランティアが大活躍していますが、ボランティアになっての応援は難しくても、身近な文化事業に参加したり、近くの博物館に出かけたりするのも、私達にできる一寸した応援の一つではないでしょうか。

<http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>